

キラリと光るダイセル製品のお得情報が満載！
キラきら情報通信@ダイセル



約40年ぶりに カラムラベルを リニューアルしました!!



ご存じの方は少ないのではないかと思います。最初のカラカラムはシールを巻きつけたタイプでした。ところがカラムの寿命が長いために、「使用しているうちにシールに記載している文字が薄くなり最後には読めなくなる」ということがありましたので、当時流行していた当社独自の「パウチ型」に変更しました。変更後、かれこれ40年近くなるのですが、カラムオープンも年々小さくなっていき、「パウチ型の固いタグは曲げにくいので入れにくい」というご意見もいただきました。



そこで、「カラムシールの材質」や「インク」等の検討を重ね、今回リニュアルいたしました！紙のシールの様にみえますが、選挙の時の投票用紙につかわれる様な合成紙で、いわゆる紙(パルプ製)ではありませんので、**シールも印字も耐久性に優れています**。簡単には破れませんし、有機溶媒がかかっても字は消えません。ただし、強くこすると字が消えてしまう可能性があるため、溶剤がかかった場合は、優しく拭いてください。

カラムラベルにはいろいろな情報が入っていますが、特に重要なのは「**カラムロット番号(Lot No.)**」です。

カラムの“性能確認”のために「出荷時の性能と比較したいが、カラムに同梱されていた“試験成績書”を無くしてしまったので**初期性能が分からない・・・**」といった場合には、「カラムロット番号」をご連絡いただければ“試験成績書”の再発行が可能です。

また、ご購入されてから長い間使用されており、「カラム性能検査を行いたいが面倒・・・」と思う場合は、有償ですが**ダイセルにて「カラム性能検査」**を行っておりますのでお気軽にご連絡ください。(送料などもございますので、ある程度纏めてご依頼された方がお得です！)

ラベル以外でも、カラムの箱や付属資料等、ご要望があればお気軽にお知らせください。早急には対応できない場合もあるかもしれませんが、検討させていただきます。



リニュアル前に比べ、
カラムオープンにも入れやすくなりました！

次頁へ続く↓↓

大好評につき第3弾！ 日本到着編 コロナ禍でのアメリカから帰国



Analytical Tools BU研究開発センター
大西 崇文 さん

皆さん、こんにちは。

今回も続編(完結編)としてCOVID-19(以降コロナと略す)下での**日本への帰国**についてご紹介させて頂きたいと思ひます。

日本に到着してからの、“もうひとつの懸念”は**日本の入国規制**についてでした。コロナ流行国からの帰国または渡航した者は、日本入国時に検疫でコロナ検査を受けることが義務付けられており、

- ・陰性だった場合→ 自宅または自分で確保したホテルで14日間の隔離
- ・陽性の場合→ 即時入院または療養所に入ること

が必要でした。妻と二人で帰国しており二人とも陰性だった場合は計画通りですが、それ以外の場合はどうなることか・・・と心配していました。

成田空港に着いた飛行機は駐機場へ向かいました。多くの場合、駐機場の空き待ちで30分待たされるなんてこともざらでしたが、減便の影響で、すぐさま駐機場に着き、空港係員が飛行機の中に入ってきて乗客を誘導し始めました。まず中国への乗り継ぎ客、次に他のアジア各国への乗り継ぎ客が降ろされ、日本に入国する者が最後に係員に連れ添われて降機しました。

係員に連れられるまま、通路を進んでいくと、受付があり、機内で渡された用紙の記入事項のチェックを受けます。その後、奥へ誘導され唾液を取るためのポリ試験管を受け取ります。その後、選挙の投票所のように個々が見えないように区切られたブースで唾液の採取をします。ブース内には**レモンと梅干の写真が貼ってあり、すっぱいものをイメージしてください**と書かれていたと思いますが「こんなもので唾液が一杯出たら苦労しないよ・・・」と思ったのは私だけでしょうか？

要 請 書
Requests to Passengers

新型コロナウイルスに関連して日本政府が指定する国又は地域から入国された方へ
To passengers from Countries and/or areas designated by Japanese government.

成田空港検疫所長は政府の方針により、新型コロナウイルス感染症の日本国内での蔓延の防止の観点から、下記の通り要請します。
We would like to make the following requests to you from the viewpoint of preventing the spread of the new coronavirus pneumonia in Japan;

記

入国した次の日から起算して 14 日間、以下のよう に行動してください。 ➢ 指定された場所から外出せず、人との接触を可能な限り控えてください。 ➢ 不特定多数が利用する電車、バス、タクシー、市内線の飛行機などは使用しないでください。 ➢ 健康状態を毎日チェック ・ 体温測定を毎日行い、発熱の有無を確認してください。 ・ 激しい咳や呼吸が苦しくなるなどの症状の有無を確認してください。 ※身近な方の健康状態にも注意を払ってください。 ➢ 咳や発熱などの症状が出たら ・ マスクを着用して他者に感染させないように注意してください。 ・ 事前に検疫所・検疫相談センターに電話連絡し、滞在していた地域を伝え、指定された医療機関を受診してください。 ➢ ご家族等の身近で過ごすことになる方へ ・ こまめに手洗いを行ってください。 ・ 十分な睡眠や栄養をとるようにしてください。 ➢ ご家族などで体調が悪い方が発生した場合、周囲の方もマスクを着用し、接触する方を限定してください。	Please stay in the designated quarantine location, and do not contact with people as much as possible. ➢ Do not use any public transportation that you might ordinarily use. This includes trains, buses, taxis, domestic flights, etc. ➢ Check your health condition. ➢ Check your body temperature for fever every day. ➢ Monitor your physical condition carefully and check for symptoms such as severe cough or breathing difficulty. ※ Pay attention to health condition of your close contacts as well. ➢ If you have symptoms such as cough or fever, ➢ Wear a mask to prevent the spreading of infection to others. ➢ Call the quarantine consultation center and inform them about your prior travel history. Then, visit the designated medical institution. ➢ For persons who live in close contact with family members, etc. ➢ Wash your hands frequently and thoroughly. ➢ Make sure to get enough sleep and nutrition. ➢ If someone in your family, etc. is feeling unwell, the people around the person should also wear masks, and limit the number of people with whom they come into contact.
---	---

Director of Narita Quarantine Station
成田空港検疫所長

“要請書”

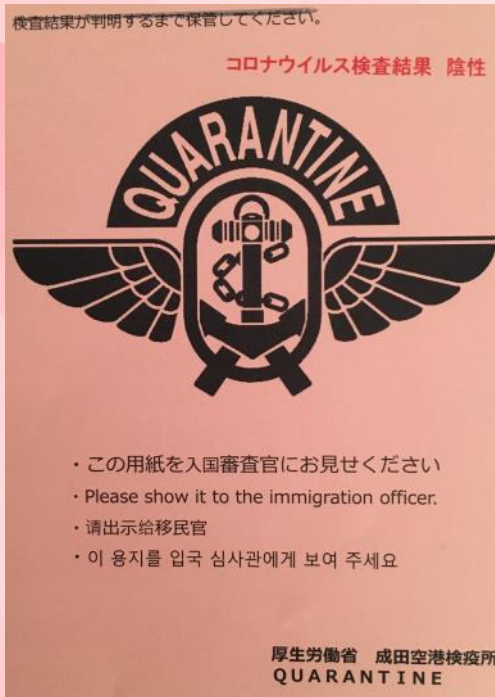
四苦八苦しながら所定量の唾液を採取し、受付に渡すと「次はあちらへ」とまるで健康診断のような感じの流れ作業で進んでいきました。たどり着いたのはやや広いスペースに大量の椅子が設置された部屋で、かなりの人がそこにいました。その部屋の入口で書類の最終チェックを受けます。

手続きは済み、あとは番号が呼ばれるまでひたすら待ちます。この時間が**心配性の私にはとても苦痛**でした。妻が気を紛らわすようなことを話しかけてくれつつ、2時間が2時間半くらい待ったところで番号が呼ばれて次の窓口へ行き、最後の書類チェック時にもらった受付番号表みたいなものを返却して、さらに奥へいくと、廊下に15人くらい並んで待たされていました。

再び待つこと30分、いよいよ**私たちが先頭になりドキドキ**していると「次の方」と呼ばれました。仕切られたスペースへ行くと3、4人の係員がいて、番号チェックして



今月号は3頁目もあります！ 続く↓↓



“陰性”の結果。ホッとしました・・・。

結果のシールを手持ちの紙に貼ってもらいました。

まず、妻の紙に(-)と書かれたシールが貼られました。その時に妻は、「なぜ受付番号が後の私の方から貼るの・・・？もしかして旦那は陽性！？」と、かなりあせったそうです。私はというと「少なくとも2人とも陽性」の最悪の事態は避けられた・・・とちょっと安心していました。

その後、私の紙にも(-)のシールが貼られて、**コロナ検査陰性と書かれた別紙を受け取り**、14日間の隔離と隔離期間中の健康連絡の説明を簡単に受け、ご苦労様でしたと送り出されました。

その後はほっとしたのか饒舌になり、妻といろいろこれからどうするか話をしながら入国、荷物を受け取り、通関と問題なく進み、引越しに関する手配や食事購入をしてから成田近隣のホテルに徒歩で向かいました。

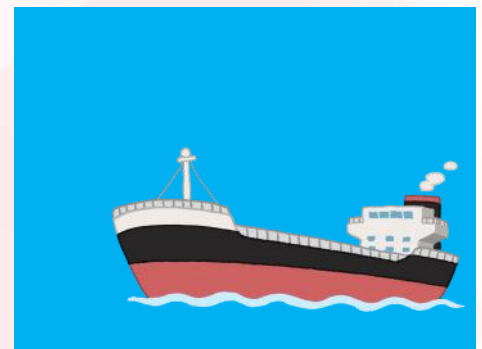
14日間の隔離期間中は公共交通機関の使用は禁止、**コンビニ、スーパーでの食料品購入はOK**とのことでした。そこから14日間はホテルに缶詰めで過ごしました。隔離期間中に成田から新潟までレンタカーで移動する必要があり、**右左折する度にワイパーとウィンカーを間違えて晴天なのにワイパーしゃかしちゃかした**という笑い話くらいしか面白いことはありませんでした。

あっという間に14日間の過ぎ、日本に帰ってきたんだなあ実感する間もなく、新住居探し、車購入などに奔走しました。9/19～9/22が連休ということで少しだけ気持ちを落ち着け、ゆったりと過ごすことができましたが、アメリカからの荷物は、いまだ太平洋上で、どんぶらこどんぶらこと運ばれている最中で快適生活にはほど遠いですが、約1カ月の期間を経て新しい生活を出発させることができました。

このような経験はしようと思ってもできるものでもなく、個人的には**疲れた一**というのが第一声になりますが、とても良い経験、思い出になりました。

コロナに限りませんが、変化にはかならず労力がつきまといいますが、世界中を巻き込んだ変化にはこれほどまでの多大な労力が必要になるということを今回の様々な体験で痛感しました。

コロナの一刻も早い終息とコロナを発端にした変化で、よりよい生活、より良い社会(世界)になることを期待しています。



発行元:株式会社ダイセル CPIカンパニー

〔東京〕 〒108-8230 東京都港区港南2-18-1 JR品川イーストビル
TEL: 03-6711-8222 FAX: 03-6711-8228

〔大阪〕 〒530-0011 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪タワーB
TEL: 06-7639-7221 FAX: 06-7639-7228

ヘルプデスク フリーダイヤル: 0120-780-104 HP: <https://www.daicelchiral.com/>

このメールマガジンは弊社と名刺交換させていただいた方、ユーザー登録・資料請求等のお問い合わせをいただいたお客様を対象に配信しております。CHIRALCEL, CHIRALPAK, CROWNPAK, DAICEL DCpak は、日本における株式会社ダイセルの商標です。